

神戸YWCA

夜回り準備会

報告書 vol.11 くらくら



0. はじめに

鍋谷 美子

今回の報告書は、これまでより少しコンパクトにすることを目指してつくられました。というか、メンバーそれぞれの事情もあって、コンパクトにせざるをえなかったのですが。それでも、各自が野宿のことだけではなく、そこから派生したさまざまな問題を自分に引きつけて書いた文章が集まったと思います。

報告書を出し始めてから10年以上、野宿の問題を取り巻く環境だけではなく、日本社会そのものが大きく変化したと感じます。そしてその変化はここ数年、1年単位でも激しく急速で、追いつけていないなあというのが実感です。

ヘイトスピーチのようにあからさまな差別が何の規制もされずまかり通る現状、ブラック企業やバイトと言われる労働環境の悪化。その中で一時は改善する方向に向かった生活保護についても、バッシングはつよまっています。

野宿というかたちで問題が再び顕在化するの、そう遠くないのかもしれないと思います。自分たちの生活やそれを取りまく社会と野宿の問題を、これからも注意深く、知り、考えていくための手がかりとなる報告書になればと思っています。

目次

0. はじめに	鍋谷 美子	1
1. 1年を振り返って	野々村 耀	3
2. 今、目の前にある貧困	立川 献	12
3. 私がフリーターだと知った周囲の反応と フリーターであるということ	匿名希望	20
4. 潜む差別	森脇 梓	24
5. わたしの失語症	梅澤 昌子	29
6. 私がリストラされたことがあると知った 周囲の反応とリストラ問題について思 うこと	匿名希望	35
7. 「セクハラ」について	金本 美子	39
8. 告発、その後	鍋谷 美子	44
9. それぞれの感想		57
10. 会計報告 カンパ御礼		64

1. 1年を振り返って

野々村 耀

* 夜回りについて

前回と同じ表を作ってみました。()内は昨年の数。

	最多	最少	合計	平均
参加者	6(7)	3(3)	98(104)	4.26(4.3)
訪問先	5(10)	3(3)	96(114)	4.17(6.8)
会った人	5(6)	2(4)	74(128)	3.22(5.3)

去年夏一人亡くなり、秋に一人生活保護を受け、冬に一人施設に入り、定住している方は減りました。定住が困難になったぶん、一定の場所に住まないで移動しながら暮らす方が増えたようです。そういう方とはなかなか出会えません(数字も表れません)。時々会うある人は「同じところにいると、住民が警察にいいに行く、すると警察も動かざるを得ないから気の毒だ。だから一晩ごとに場所を変える」といっていましたが、大変なことです。

短いほうが読みやすいという意見があったので、今回は短くしたいと思います。活動内容は10ページのビラの通りですが、野宿している人が少なくなり、現実には保護申請や医療につなぐ活動も必要がなくなっています。必要な時

にはいつでも取り組む準備はあります。

昨年取り上げた「空き缶条例」の問題は、特に大きな変化はありませんでした。またその前の年に注目した「襲撃」も私たちが夜回りしている地域では幸い起こっていません。この期間に気になったのは、野宿している人の生活必需品を持って行ってしまう（盗む）とか、毛布を水につけて寝られなくなしたり、煮炊きするコンロや保管している食べ物などを地面にばらまくなどの「嫌がらせ」があったことです。

ある公園で寝ているAさんは何回も毛布を持ち去られました。それだけでなく、寝袋、衣類（下着その他）なども何度も無くなりました。鞆ごと大事なものをとられたこともあります。最近では近くで野宿している人はいませんから、必要があって持ち去るのではなく、ただ困らせて喜んでるのでしょう。

Bさんの場合も、テント代わりにしているブルーシートを刃物で切り裂いたり、毛布を水溜まりに放り込んだり、遠くに投げ捨てたり、ということがかなり長期間繰り返されました（数か月間）。

今期のことではありませんが、粗大ゴミの中から価値のあるものを探し出し、それを売って暮らしていた人が、「売ろうと思って隠しておいたものが盗まれた」とこぼすのをよくききました。

以前は、寝ているテントに放火する、鉄骨や自転車を投げつける、軽自動車でやってきて生卵を投げつける、といった直接人体に対する攻撃もありました。今期はそのようなことはありませんでしたが、寒さから身を守る毛布や寝袋が使えなければ、場合によっては命に関わります。煮炊きするコンロや生活用具、保管している食べ物などが持ち去られるのは大きな問題です。そのことを警察に訴えたが、公園に物を置くのが悪いと、取り合ってくれなかったとのこと。私たちもそういうことが無いように監視に行ったこともあります。いつ来るかわからないので、有効な手は打っていません。



私たちの夜回りしている範囲（神戸市東灘区・灘区）で野宿する人の人数が減ったことは、表の通りですが、神戸市全体でも全国的にも同様の傾向がみられます。それと並行して、関心を持つ人も少なくなっています。ちなみに、神戸市内の別の地域で野宿する人の支援活動をしてきた2つのグループ（バプテスト・ホームレス支援ネット兵庫、

日本基督教団多聞教会)は、15年春に活動を縮小したり終了したりしました。私たちとつながっているグループでは、カトリック社会活動神戸センターが定期的な夜回りと週3回の炊き出しを続けています。

しかし、減少傾向が続いているとしても、前回も書いたように、問題が解決したわけではありません。

これまで、失業などの行きつく先が「野宿」だったとしたら、野宿さえもにくい社会環境になっている(野宿したり横になったりできる場所もどんどん減り、公園を夜間閉鎖するところさえあります。地下通路もシャッターで入れません)のでこれまで考えられなかったような形になっているかもしれないとおもいます。

様々な形の規制緩和が沢山の歪を引き起こしています。(今の規制緩和というのは、結局は、企業が利益のために自由にふるまえるようにすることです)。

特に労働者を保護する仕組みが次々破壊され、非正規雇用が4割を超え、解雇の自由化(金銭解決)も実現しそうです。仕事を失った場合のセーフティーネットである生活保護はどんどん劣化し(生活費・住居費・暖房費などが切り下げられ)ています。その先には貧困徴兵制が待っているという人もいます。仕事がなく、社会保障も弱体化した

中で、自衛隊に行かざるを得なくなるというのです。非正規労働者の2割は食事の回数を減らした、医療費を切り詰めたと報じられています。(『朝日新聞』2016年1月14日「非正規の2割「食事の回数減らした」生活苦しのぐため」<http://www.asahi.com/articles/ASJ1G56JJJ1GULFA01V.html>)

僕の友人でも、今月は内科にかかったから、歯医者は来月にしようなどといいます。(TPPが成立すれば、医療も受けにくくなる、TPPが憲法より上位になるという指摘もあります)。学生のアルバイトが過酷で、試験も受けられないとか、奨学金がローンになって卒業後に暮らしが成り立たないとか、困窮が広がっています。



また、突然状況が悪化して、野宿する人が増えるかもしれません。これまでも、何度か突然解雇が増えると同時に野宿する人が急増するということがありました。

それが、景気の動向によるのか、東北の復興事業や原発関連やオリンピック関連の事業の動向がきっかけになるのかは予測が付きません。ネットカフェで暮らす人も、収入がなくなれば、追い出されるでしょう。

そういう意味で、私たちは、今野宿する人の人数が少ないから活動は終わっていいとも思えないでいます。

(ののむら よう)

* 2014/8—2015/7 の訪問記録

日付	参加	訪問先	出会った数
8/9	—台風・中止—		
8/23	5	6	5
9/13	3	6	3
9/27	5	5	4
10/11	4	5	4
10/25	6	5	3
11/8	4	5	3
11/22	3	5	3
12/13	4	4	2
12/27	6	4	4
1/10	5	4	3
1/24	4	4	3
2/14	6	4	3
2/28	4	4	3

3/14	4	4	3
3/28	5	3	3
4/11	3	4	4
4/25	5	4	3
5/9	4	4	3
5/23	3	4	3
6/13	4	3	3
6/27	3	3	3
7/11	4	3	3
7/25	4	3	3
合計	98	96	74

夜回り

INFORMATION

夜回り・・・・・・・・・・・・・・・・・・
野宿をしている方々を訪問します。
活動日：毎月第2・第4土曜日19時00～



病院訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・
通院してから住み添のない方々を訪問します。
活動日：毎週木曜日 昼から



昼まわり・・・・・・・・・・・・・・・・・・
夜回りで如になるところをあらかじめ訪問します。
活動日：昼時



夜回りミーティング・・・・・・・・・・・・・・・・・・
話し合いや勉強会のときを持っています。
活動日：毎月第3土曜日 19時：00～

ボランティア募集！！

みなさんも是非参加してみませんか？

問合せ先

神戸YWCA


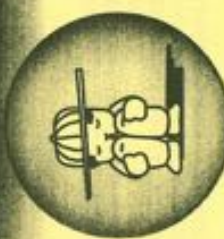
TEL 078-231-6201

E-mail:kobe@ywca.or.jp

URL : <https://www.ywca.or.jp/kobe/NOJUKU/nojuku.html>

夜回りの人権が
守られなければならないように

夜回りの人権が
守られなければならないように



神戸YWCA 夜回り準備会
〒651-0003
神戸市中央区二宮南1-12-10
TEL 078-231-6201
(分室) 中央区阪口通5-2-16

夜回り

2. 今、目の前にある貧困

立川 献

■「貧困」というテーマ

今、「貧困」というテーマは、メディアにおいて、一つのブームとなっていると思います（貧困、という言葉の持つ意味は多義的ですが、ここではこれをお読みになるかたのイメージにお委ねしたいと思います。）。

2013年7月頃から、満島ひかりさんが主演していたドラマ「Woman」というドラマが放映され、シングルマザー家庭の貧困問題がクローズアップされました。朝日新聞では、昨年『シリーズ「子どもと貧困」』という特集が組まれていました。様々な形で、「貧困」というテーマが取り上げられるようになってきているように思います。

ドラマ「Woman」については、見ていてツライ、生々しすぎるという声が、そこかしこから聞こえていたところでした。私も、放映当初は続けて3話ほど見ましたが、主人公の家族の不憫さに耐えかね、途中から見ることを止めてしまいました。

■『週刊東洋経済』における貧困特集

そんな中、週刊東洋経済2015年4月11日号（第6586号）において、「あなたを待ち受ける貧困の罠」とい

う特集が組まれました。非常に詳細に貧困問題に切り込んでいる特集であり、手に入れることができるのであれば是非ともお読みいただきたい1冊です。

実際に貧困に陥ってしまった様々な年齢、性別の人に対して、それまでどのような生活をしてきたか、どのようにして貧困に陥ってしまったかといったことについて、インタビューがされ、その実情が語られています。

■貧困に陥る原因

1. 特集を読んでまず気づいたことは、人が生まれ、学生生活を送り、社会人になり…という人間の一生のサイクルの中には、貧困に陥る原因が、沢山隠されているということです。

そして、恥ずかしながら、夜回り準備会の活動を通して、野宿生活をしている方とお話をさせていただいている私自身も、生きていく中で様々な貧困に陥るリスクにさらされている、ということに今になってきちんと目を向けることができたように思います。

2. (1) 子どもの貧困

朝日新聞が、子どもの貧困に関する問題を取り上げた、と上で述べましたが、子どもの貧困の問題は、子どもが「貧困家庭」に生まれる、という場合もあり、それはすなわち、貧困問題に絶対に立ち向かわなければならない境遇に産み落とされる子どもたちが、少なからずいるということで

す。人は、生まれる前から貧困リスクにさらされています。

また、両親が離婚することによって、貧困に陥る子どももいます。子どもが小さいうちに親が離婚し、シングルマザー家庭となるような場合、余程周りの人の助けを受けることができる状況でない限り、子育て、家事、育児を一人でそのお母さんが担うこととなります。その生活の大変さは、どれほどのものだろうかと思います。



(2) 学生の貧困

大学生も、貧困・生活苦という問題にさらされています。

アルバイトをしなければ大学に通うことができない、という生活状況の中で、いわゆる「ブラックバイト」なるものに捕まってしまった場合に、この問題は顕在化すると思います。

ブラックバイトの現状は悲惨であり、アルバイトのため

に授業に出られない、試験を受けられず単位を落とす、就職試験を受けられない等々といった、様々な現実的な問題が報告されているところです。

ブラックバイトから抜け出すことができず、大学を辞めなければならなかったとしたら、希望の会社に就職することはおろか、まともな就職活動をすることもできなかったとしたら、手に職をつけることもできず、ひたすらブラックバイトに搾取され続ける生活となってしまいかもかもしれません。そのような問題を抱えたバイト先が、まともに賃金を払うでしょうか。残業代を払うでしょうか。適切な休暇を与えるでしょうか。

搾取され続けた結果、若者が貧困に陥ってしまうという状況を、容易に想像することができます。



(3) 社会人から貧困へ

ア ブラック企業の問題

少し前から、ブラック企業という名称がメディアを賑わしています。

ようやく社会に出た若者だけでなく、様々な人的資源を食いつぶすような企業、といえると思います（また、社員をうつ病にして辞めさせる方法などを記載していた社会保険労務士のブログについても、ご存じの方がいらっしゃるかもしれません。）。

せっかく社会人として歩み始めた若者が、ブラック企業に入ってしまったら、そこで心を病んでしまったら。経済的に支えてくれる人が誰もいなかったら。

ブラック企業ではなく、いわゆるホワイトな企業に入ることができたとして、それでも病気になったら、交通事故に遭ったら、そして仕事を失ったら。

そういう状況になったとき、貧困問題は自分の目の前に立ちはだかってくることになります。

イ ローンの問題と貧困

社会人は、自由に使えるお金が一定程度はある場合もあります。これが貧困の原因になる、という逆説的な場合もあるように思います。

住宅や車、様々な大きな買い物をするにあたり、ローンを組む。これはよくある話だと思います。私が、25年ローンで住宅を購入するとします。このとき、私はきっと「2

5年間、頑張っって働いてローンを返そう」とは考えると思います。しかし、これは「25年間ずっと元気に頑張れる」という前提がなければ成り立ちません。また、「25年間ずっと家が無事に存在し続ける」ということも、私の考えの前提となっているでしょう。

この2つの前提が崩れるときこそ、貧困の罠に陥るときではないかと思います。何かで病気になったら、仕事ができなくなったら、すぐに1つ目の前提は崩れます。2つ目の前提も、大きな地震があるだけで、隣家の火事に巻き込まれただけで、いとも簡単に崩れます。

(住宅を売却したり、保険に加入したりすることで、ある程度リスクを回避することができることは当然ですが、)このような事態となれば、「働けないけどローンがある」、「家はないけどローンがある」という状態になり得ます。貧困の罠は、こういったところにも潜んでいます。

■ 色々な問題とつながる貧困

様々なメディアで、貧困が取り上げられています。

「貧困」特集という形であることもあります。しかし、色々なニュースの裏に、貧困問題が隠れていると思います。

生後3か月の子どもを抱えて線路に飛び込んだ母親のニュース、実家に住んでいた無職の男性が家族を殺したニュース。このような問題の裏には、もちろん様々な背景があるでしょう。原因はこれだ、と断定することはできない

こともあると思います。しかし、このような事件の背後に、「貧困問題」が隠されていることは、決して少なくないと思います。

■今、目の前にある貧困

自分の生活を思い返してみると、自分の収入がいくらで、仕事を失ったらそれが全部なくなって…家賃がいくらで、奨学金の返済が毎月いくらで、実家に戻ったとして親の収入がいくらで…。

多少の期間は大丈夫だと思いますが、「簡単に生活ができなくなるなぁ」と思います。

何かの折に、自分の収入がなくなるシミュレーションをしてみてください。

貧困問題は、どこかの誰かの問題ではなく、自分とそう遠くないところにある問題だ、ということに気がつくと思います。

人が生きていく中で、貧困に陥るリスクは様々なところに隠されています。

様々な「貧困」が、社会にはあふれていると思います。そのような社会に生きている以上、「貧困」をどこか遠くの問題としてとらえるのではなく、自らの問題としてとらえることが必要だと思います。

色々な「貧困」をめぐる話題に触れる際、適切な援助や支援の手を阻むのは、心無い人たちの偏見です。「ブラック

バイトなんか辞めれば済む」、「路上で生活しなければならぬのはやる気がないからだ」、「何も自殺しなくても良いのに」、そのような発言を聞くことは決して稀ではありません。

また、様々な貧困問題が、メディアで取り上げられるとき、そのショッキングさだけが、取り沙汰され、「そういう状況に陥った時にどうすれば良いか」ということまで、語られることは、少ないように思います。

しかし、このような状況の中で、少なくとも私自身は、貧困問題について見聞きするとき、想像力を働かせて考えるようにしたいと思います。一人一人が少し立ち止まって考えるだけで、もう少しだけ優しい、偏見の少ない世界になれるのではないかと思います。そうすれば、何か問題が起きたときでも、誰かに早めに相談することができるようになるのではないかと思います。また、貧困に陥りそうなとき、貧困に陥ってしまったとき、その状況を乗り切るための手段は、世の人が思っている以上に多いのです。私や、夜回り準備会自身は、そのような「手段」の1つになりたいと考えています。

貧困は、自分の問題として、社会の問題として、今、目の前にあります。

(たちかわ けん)

3. 私がフリーターだと知った周囲の反応と

フリーターであるということ

匿名希望

詰んだな(笑)

終わっていません

女の子だから、結婚すれば大丈夫

意味が分かりませんが、結婚しなくても大丈夫です

親が可哀想やわ

同情するなら、正規職員にしてほしいです

何で就職しないの？

就職出来なくて、すみません

ちゃんと働きなさい

週に40時間以上働いています。夜勤もしています

贅沢言わんかったら、なんぼでも(仕事)あるんやで

だから働いています

そんなん(フリーター)で、
食べていけるん？

あなたに、私の生計について
報告する理由はありません

これから、どうするん？

あなたに、私の将来設計を
報告する理由はありません

お前みたいな社会不適合者は、
ここ(アルバイト先)で正規職員試験を受けないと
行くところないで

あなたが、
私の人事権がある人だったら
良かったのにね



私は去年の報告書で、リストラ体験談を書いたものです。現在は、病院の清掃の仕事をフルタイムのアルバイトとして働いています。仕事は大変ですが、「仕事があるのは有難い」と思って働いています。正直なところ、給料明細を見るたびに、事務職の時の方がお給料がよかった為、「事務職に戻りたいな」と思います。ボーナスの時期になれば、「私は、もうボーナスで旅行に行ったりできないんだな」と悲しくなります。夜勤を9回(16時から翌日の9時までの16時間勤務)、日勤を3回というシフトで働くと、「定年までもつかしら？」と不安になります。しかし、仕事があることに感謝する気持ちはなくなっています。そして、生活も何とかなっています。

私の周囲の方たちは、私を心配したり慰めようとしたり喝を入れようとしてくれていると思います。しかし、私が求めていることは、フリーターを否定しないことです。私は就職が出来なくて、フリーターをしているので辛いです。就職できない自分=(雇う)価値がない自分という現実が突き刺さります。

生きることや存在することに、価値とか意味などは、あってもなくてもいいはずです。だから、非正規の増加が貧困の拡大や深刻化につながるとしても、フリーターを否定していい訳ではないことを分かってほしいです。

私は「正規職員になりたい」「寿退社を強要されると困る」「働き続けたい」と思っていますが、マタハラニュース

などを見たり、非正規を否定する人が近くにいる、「自分が非正規だと話をしたら、努力が足りないから正規になれないんだと否定されて傷付くだけ」と思って言えません。

分かってほしいけど、伝えるのもおつかしい状況です。

私を否定した人は、ほとんどが私より年上の方です。私より、人生経験もあり努力や苦勞をなさっていると思います。だからこそ、私が何を言っても「人が生きてきたことを否定すべきでない」と気づいて改心することはないだろうなどと思い、同じ職場で定年まで働きたいという当たり前のことが言えないでいます。

私にも、他の人と自分を比べたり、人を否定することで自分を正当化するときがあります。しかし、人はそれぞれだし、他の人が間違っている＝自分は正しい訳じゃないと分かっています。なので、人を否定しないように気を付けています。



価値観はそれぞれですが、非正規だとしても人が働くことを否定するのは人権を損なうと思います。

読んでくださり、ありがとうございました。

4. 潜む差別

森脇 梓

パリ同時テロの報道

2015年11月13日、フランスのパリで同時テロが発生した。多くの市民が犠牲になった痛ましい事件に世界は震撼し、連日大きく報道された。報道を受けて怒る人、悲しむ人、哀悼の意を表する人。日本でもショックを受けた人は多かった。しかし、パリの報道一色の状況に、私はやや違和感を覚えた。

確かに、悲しい出来事であるし、テロ行為は決して許されることではない。しかし、その一方で、フランスがシリアに対して行ってきた空爆を無視していいのだろうか。多くの罪のない人々の命を奪っているという点では、テロとなんら変わらない。それなのに、パリの報道に比べて、シリアの様子はほとんど報じられない。

多くの犠牲者が出ていることは同じであるのに、この差は何なのか。危険な地域に取材に行くのは困難だから、あるいは、日頃から死傷者が出ている場所での出来事よりも、平和な街で起こった事件の方がニュースバリューがあるから、という理由はわかる。しかし、それにしても差がある。この差を当たり前のこととして捉えていいのだろうか。また、先進国への支援には積極的なのに、難民の受け入れ

には消極的という、わが国の政府の姿勢にも首をかしげてしまう。シリアには多くの遺跡が存在し、自然豊かで食べ物がおいしいことをどれだけの人が知っているだろう。あまり知らない国だからといって、知ろうともしないままでいいのだろうか。

渋谷区の二面性

2015年に渋谷区と世田谷区で、2016年からは他の自治体でも同性パートナーシップが認められることになった。渋谷区の条例は、正式には「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」という。2015年4月から施行され、11月5日からパートナーシップ証明書の交付が開始された。

この同性パートナーシップは、男女の婚姻関係と同等に扱われるとされているが、結婚により得られる権利がすべて得られるわけではない。例えば、法律上配偶者同士として扱われるわけではないこと、共同親権が得られるわけではないこと、外国人パートナーと日本で結婚生活を送るための資格が与えられるわけではないことなどが挙げられる。以上のような問題点は残しているものの、認められたことはいくつかある。区営住宅への入居、区民や事業者に証明書に基づく同性同士の関係を尊重するように求めること、区長による差別者に対する是正勧告、勧告に従わない者の名前の公表などである。ちなみに、世田谷区は条例

ではなく要綱に定められており、証明書ではなくパートナーシップ宣誓書という。条例が議会の議決を経て制定される法令であるのに対し、要綱は首長の権限で策定される行政の内部基準であり、法的拘束力はない。渋谷区は、条例で定めた点で一步進んでいる。このように、渋谷区は多様な性を認めるという点では、進んだ取り組みを実践している自治体である。



ところが、別件では強権的で冷たい態度をとっていることをご存知だろうか。2014年12月26日から1月3日まで、宮下公園など3つの公園を突如閉鎖し、ホームレスや炊き出しを行う支援団体を締め出したのである。閉鎖した理由は、「炊き出しやテントの設営など安全性に問題がある行為をやめるよう求めていたが、受け入れられなかったため。また、ホームレス増加に伴う治安の乱れを懸念する周辺住民の声を考慮したため。(毎日新聞 2014年12月26日「宮下公園など3日まで閉鎖 ホームレス締

め出し」)とされている。支援団体にどれだけ注意を促していたのか定かではないし、ホームレスの増加が治安の悪化に直結するという点について、根拠となるデータがあるのかもわからない。たとえ、あるのだとしても、きちんとした説明もないまま、急に閉鎖していいのか。炊き出しを待っている人たちの居場所を勝手に奪うことの方が、よほど問題である。

以上のような二面性はどこからくるのだろうか。積極的に解決しようと取り組む問題と、はねつける問題を選別しているかのようである。

個人の二面性

上記の同性パートナーに関するニュースを、実家で父と観ていたときのことである。原発も安保法制も反対、日頃から政権を批判している父だが、このニュースを観たときは、同性愛に対して否定的な意見を述べた。「同性愛は神に背く行為」だと。私は意外に感じたので、「そこは保守的なんだね」と返した。先日も、神奈川県海老名市の市議会議員が、「同性愛者は生物の根底を変える異常動物」などと暴言を吐いていたが（他の地域でも同様の発言をした議員がいる）、自分が当たり前だと思ってきた価値観を覆すような存在を認めようとしなない人は多い。そして、ある物事は容認しても、別のある物事は容認しない。意識的にせよ、無意識的にせよ、一見矛盾するような相反する立場を一人

の人間があわせもつことは少なくない。

私にしても、自分で気づいていないだけで無意識に差別していることはあるだろう。関心のあるトピックとそうでないトピックとの間には温度差がある。自分から遠いと感じる話題であっても、自分には関係がないと思いつくのではなく、積極的に見聞きし、さまざまな考えや立場に触れて視野を広げることを怠らないようにしたい。いろいろな角度から見る目を養って、自分の意見を持ちたい。世の中に絶対的なもの、絶対的に正しいものなどない。必ずと言っていいほどバイアスがかかっている。それを見破ること、疑問に感じることを忘れないでいたい。

(もりわき あずさ)

【参照】

・『Wotopi』「「同性パートナー条例」で渋谷区はどう変わるの？多くの人が誤解している条例の中身」

<http://wotopi.jp/archives/18316> 閲覧日:2015/12/14

・『LETIBEE LIFE』「次は世田谷区！同性パートナーシップ渋谷区との違いまとめ」
<http://life.letibee.com/study/setagaya-shibuya-artnership/> 閲覧日:2015/12/14

・『毎日新聞』「宮下公園など3日まで閉鎖 ホームレス締め出し」

<http://mainichi.jp/articles/20141226/mog/00m/040/041000c>

閲覧日:2015/12/14

5. わたしの失語症

梅澤 昌子

「この春から、ホームレス状態にある人たちへの夜回り活動をしているグループのお手伝いを始めたよ」と近況報告すると、たいていの人たちは「ふーん」「えらいね」などなどと、曖昧に、でも肯定的な相槌をうって、そのあとは話題を変えるか、自分のボランティア活動の話を始めると、ホームレス問題の背景にある貧困やソーシャルセキュリティネットについて何か自分の「意見」を言い始めるかで、「それで、あなたはその活動を通じて、どんなことを感じたの？」という類の、ホームレス状態にある人たちに接したときにわたしたちが感じる

「感情」や「心の動き」、もっと言えば「こころの痛み」について、踏み込んで聞いてくる人は、すくなくともわたしのまわりには、ほとんどいなかった。それは、いいことだとも悪いことだとも思わない。「いいことやってるね」と肯定的な感想をくれるだけで十分だ。もちろん、こちらも、相手を選んで、理解してくれそうな人にだけ喋っているわけだけど。この点で、わたしも十分にずるい。

しかし、稀に、そういうことを聞いてくる人もいる。今、思い出せるのは、同性同世代の二人だけが、「それ

で、どう？　どんなこと感じたの？」と、さらっと聞いてきた。「えらいね」と褒めることも「自分の意見」をぶつこともなく。問題なのは、そしてわたしが言いたいのは、そういう彼女たちの共感力が高いとか心が開いてるとか、そういうことではなく、もちろん「痛み」に関心を示さないその他の人たちへの批判でもなく、こういうことを聞かれたときのわたしの反応だ。二回とも、わたしは、しばらくの間、まるで失語症にかかってしまったかのように、何も話せなくなってしまったのだ。彼女たちは二人とも、気のおけない友達で、なんでも普段着のことばで話せるのに。頭のなかではちゃんと言葉が組み立てられる。あたりさわりのない答がいくらかでも考え付く。でも、喉はまるで発声のしかたを忘れてしまったかのように、びくりとも動かない。動かせなかった、という表現のほうが正確かもしれない。

一人の友人は、東京の地下鉄銀座線のホームでわたしにそう聞いた。彼女は学生時代の友達で、都心のタワーマンションに家族と暮らしている。彼女自身は瀟洒な生活をしているわけじゃないけれど、彼女のご近所友達は「タクシーばかり利用していて、地下鉄や電車には乗らない」人たちばかりだと言う。そんな場所で、そんな話を数分前に聞いたばかりで、あの、Tさんの「お家」に続く雑草に覆われた小道から見上げた星空のことや、公園

で寒そうにラジオを聞いているOさんのことを、どんな言葉で、どう話せば伝わるのだろうか？ どうやったって、伝わりっこない。いや、でも、彼女は長い友達で、わたしよりもずっとずっと優しい心根の持ち主だということも知っている。ああ、だけど。。そんなことを、口がきけないまま、ぐるぐる考えていると、東京の地下鉄のホームが、アメリカの東部の都市のそれに見えてくる。クリーブランドとかデトロイトとか、どこか五大湖周辺の工業都市、アフリカ系の人たちと白人の人たちがまったく交わずに生活している、同じ場所に二つのまったく違う国が同時に存在するような、そんなイメージが、今、自分が立っている東京の地下鉄と重なりあって見えてくる。同じ空間、同じ国にいても、お互いがお互いを見ることもなければ、下手すると意識することさえない、そんな国。



「失語症」は、小さい頃からのわたしの癖だ。病的なところまで行ったことはないけれど、子供の頃はよく何もしゃべれなくなっていたし、発表とか大の苦手だったし、今でも、どうでもいいことはべらべら喋れるのに、肝心な、大事なことになる、突然、無口になる。あるいは言葉数が極端に少なくなる。そういう癖は自覚していたけれど、この友人ふたりのときはひどかった。わたし自身が思うよりその時間は短かったかもしれないけれど。絶望に近いあきらめと、逆に「あきらめちゃダメ」と、わたしに話すよう促す何かと、アメリカの都市のイメージと、神戸の夜と星空のイメージが、同時に脳に溢れてきて、そして、「心」が、「これは大事なことから、適当に答えちゃダメだ」と、「どうでもいいことならべらべらしゃべれるわたし」にストップをかけたのだ。非科学的なのは重々承知してるけど、この説明が一番し



っくりくる。人は、考えてないときだけでなく、おしろ考えすぎるとき、情報があふれてしまうときほど喋らなくなるのかもしれない。そして、「こころ」の深いところが、ふと、なにかのはずみで、発動してしまうときにも。

結局、あの黙っていた時間は、数十秒だったのか、数分だったのか。とにかく、友人が心配するほどの間ではなく、わたしは不器用に、なんとか言葉を発して、会話を続けた。「(障害を持っている人が多いと思ってたけど) 普通の人が多くてびっくりした」だったかなんだったか、そういうことを言ったと思う、どちらの場合も。不思議なことに、あの失語症体験の間にイメージした視覚や、友達の声や、銀座線などのその場の風景は、今もリアルに思い出せるのに、自分がなにを答えたかという記憶のほうはうすぼんやりとしている。「あれは、実際にやってみないと、わからないよ」というようなことも、口にしたかもしれない。覚えていないのは、結局、「どうでもいいことをべらべら」としか喋れなかったからなのかもしれない。

「格差が進んでいる、可視化できない弱者がいる、だからこそ言葉を尽くして伝えていかないと」という結論でまとめるのは簡単だ。なによりそう書けば気持ちいいし、かっこいいし、なんだか明日に希望がもてる気もしてくる。だけど、たぶん、わたしは、同じことを同じタイミングで、さらっと、不意打ちで、鋭利なナイフがすっと斬り込んでくるように聞かれたら、たぶんまたあの「失語症」が発症する。こんな重いことを、すらすらと語る言葉をわたしはまだ持たない。そして、わたしの「こころ」が、まだ「大事なこと」と判断し、自分にブ

レーキをかけることに、すこし安心もしている。これももしかしたら、ずるいことなのかもしれないけど。わたしたちは、程度や症状の差こそあれ、目の前で人が死んでいたり、苦しんでいたり、ホームレス状態で公園で震えていたりしたら、平気ではいられない様にできている。わたしの失語症は、わたし一人の病気ではない。誰にでも、心のそこのどこかにあるはずのものなのだ。たぶんきっと小さい頃に「発動」しないように蓋なんかしちゃったりして、でも人間である以上捨てることはできずに、深いところにしまってあるものなのだ。湖の底に沈む小石のように。誰の心のなかにも、きっと。

(うめざわ まさこ)



6. 私がリストラされたことがあると知った周囲
の反応とリストラ問題について思うこと

匿名希望

大変だったね

話を聞いてくれて、ありがとう

私も、(リストラ)されたことがある。。。辛いよね

共感してもらえて、嬉しいです

頑張ってるね

頑張ります

不景気で、会社も大変だからね

私も、無職にされて大変ですけど？

今時、よくある話やで

よくある話では、困ります。
退職を強要されない社会を望みます

何したん？

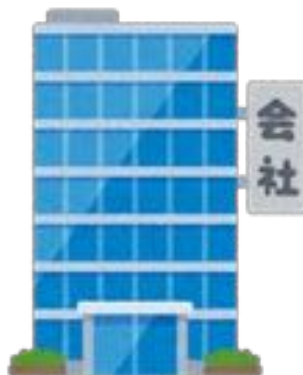
悪いことしてません

結婚したら、どうでもよくなるわ

リストラされてから、次の仕事が見つかるまで
毎日のように家で泣いたことを忘れません

私も、転職したことあるよ。大丈夫。

自己退社で転職するのと、
退職を強要されて転職するのは、
違う気がします。けど、頑張ります。



私は、会社側から、退職を強要されました。人事の人に「辞めたくありません」と言いましたが、ダメでした。「私は要らない人間だ」「私はダメな人間だ」「これから、どうしよう」と思いました。悲しくて不安で辛かったです。

リストラのことは、恥ずかしくて惨めで周囲の人に言えませんでした。次の仕事が決まってから「リストラされた」と言えるようになりました。そして、「リストラされた」と発言して、第三者に自分を否定されると「転職活動中にリストラされたことを言わなくて良かった」と思います。だって、悲しくて不安で辛いときに自分を否定されたら、その人を嫌いになってしまうからです。発言は自由です。自虐ネタというのもあります。しかし、「リストラされて、生活に困っている」「辛い」と言えないように人を追い詰めていないか？と考えてから、発言してもらえると助かります。



転職後、私は母に、「私、リストラされてしまった。ごめんなさい」と話をしました。しかし、母は周囲の人に、「あ

の子、転職したかったみたい」と嘘をついています。母は、娘がリストラされた現実を受け止められないほど傷付いているのか、娘が「リストラされる程度の低い人間」という、れってる？すていくま？で苦しまないように守ろうとしてくれているのか、その両方なのか分かりませんが、胸が痛いです。私の力不足でリストラされて、就職できずにフリーターをして母に嘘を言わせているからです。

私は薄給とはいえ、一人暮らしが出来る程度には収入があります。健康診断は問題なく、福利厚生と民間の終身保険などに加入しており、両親に金銭的な迷惑はかけません。兄が両親の面倒を見てくれています。私も協力しています。だから、両親の老後の心配はありません。リストラされてから両親を何処にも連れて行ってないけど、また温泉旅行に連れて行ってあげたいと思っています。だから、親不孝じゃありません。と、心の中で必死に自分を正当化しています。

「自分は努力している(正規で働いている)から正しい」。そう考えるのはかまいませんが、「リストラされる側にも問題があるはずだから非難してもいい。そう考える自分は良識をもっている」。という思い込みは偏見です。読んでいただき、ありがとうございました。

7. 「セクハラ」について

金本 美子

「セクハラについて」

越年の炊き出しで、痴漢に遭いました。

鍋谷さんは、私の話を聞いて、実行委員会に痴漢の被害の報告をしてくださいました。

後日、鍋谷さんと実行委員の人と加害者Aさんと3人で話をしてもらいましたが、Aさんは分かってくれず、その結果、夜回り準備会の担当の炊き出しの日はAさんは参加を控えてもらうことになりました。

Aさんが改心してくれなかったことは残念ですが、炊き出しは安心して参加できることになりました。

ありがとうございました。

私は、女性で野宿されている方に会いたいです。女性で野宿者支援や貧困支援をされている方にも会いたいです。そして、炊き出しに関心のある方に「炊き出しの場は女性が来ても大丈夫」と思ってもらいたいです。だから、まずは自分が炊き出しに来ても大丈夫な場所にしていこうと思います。

鍋谷さん、実行委員会をはじめとする炊き出し関係者様、夜回り準備会の皆様、ありがとうございます。

「運営委員会に痴漢被害を報告して良かったこと」
話を聞いてくれたこと
私の了解を得てからAさんの話を聞いてきてくれたこと
私の「炊き出しの場から排除されたくない」という気持ちを尊重してくれたこと

「2015年から2016年の越年について」
痴漢がいないので、安心して参加出来ました。そして、越年の実行委員の方が、セーフスペースのビラを読み上げてくださったのが良かったです。
カレーが美味しく出来て良かったです。Aさんがいなくても炊き出しは出来るという自信が出来ました。
炊き出しに参加された皆様、ありがとうございました。

「痴漢の話をして辛かったこと」
運営委員会で痴漢の報告をしたときに、Aさんのことをよく知るBさんもいました。
Bさんは「あの人はいい人だから。。。」という話をされました。しかし、加害者を擁護されてしまうと、加害者を非難したり痴漢させないようにするにはどうしたらいいか？という話がしにくくなってしまい、しんどかったです。
Bさんは「また炊き出しの場で会ったら、その時に直接言えばいいじゃない。」と言われました。私も自力で痴

漢を止めさせたかったし、痴漢されても声を出せる人はいるのに私はなんて弱いのだろうと思うので、辛いのです。

このBさんは女性です。私は、「Aさんにお尻を触られて気持ち悪かった」「怖くて声が出なかった」この気持ちは、女性に話せば分かってもらえると思っていました。実際は男女問わず難しいことでした。

「痴漢に遭うことの苦痛や恐怖」が分からない人には伝わらないと思いますが、痴漢被害を話すことは苦痛です。それでも、「もう痴漢されたくない。炊き出しの場を安全にしたい」と考えて話しました。きっと、鍋谷さんや友人など、話を聞いてくれる人や助けてくれる人がいなければ、私は炊き出しの場から排除されていたと思います。私も、ゆくゆくは不当に排除されそうな人の力になりたいです。

鍋谷さん、炊き出しの関係者様、夜回り準備会の皆様、ありがとうございます。



「感想」

私は、相手との関係によって適切な距離があるということを知りました。例えば、相手に不快感を与えないようにするには親しい人は50センチ以上、親しくなければ100センチ以上の距離をとるのが望ましいとも言われているそうです。

私は、女性の友人であれば手を繋いだりキスしたりしていました。私も加害者になる可能性はあるし、すでに誰かを傷つけてしまっているかもしれません。だから、今回の痴漢の事をきっかけに、二次加害防止研修に参加出来て良かったです。

あと、物理的に距離をとるというのは分かりやすいけど、言葉の暴力についてはおつかしいのでこれからも考え続けていきたいです。

そして、「痴漢されたくない。炊き出しの場から排除されたくない」と自分の気持ちを伝えて良かったです。痴漢について報告している途中で、「痴漢の事を自分一人で解決できないのが情けない。炊き出しの場に行かなければ痴漢されなくて済む」と弱気になることもあったけど、前回の炊き出しは痴漢されずに安心して参加できたからです。

私にとって炊き出しは、野宿されている方や食事を必要としている方と食事を分かち合う場所で、「貧困は社会

問題である」と考えて、自分に出来ることを探したり行動している人がたくさん来ていると思います。だから、その場所から排除されなくて良かったです。これから、参加したいと思います。ありがとうございました。

(かねもと みつこ)



8. 告発、その後

鍋谷 美子

昨年、金本さんが越年炊き出しの場でのセクシャルハラスメントについて告発してくれました。それから、今年の越年までの間のできごとや取り組みを、ここでは報告したいと思います。

まず、この件を受けて3月の夜回り準備会の中のミーティングで話し合い、共有しました。そこで、越年を主催する実行委員会に話を持っていき問題提起をすることになりました。神戸の越年越冬実行委員会は、兵庫県下で野宿者支援の活動をする各団体が集まり、毎月情報共有のための会議をしているその延長で行われていて、夜回り準備会もその一員です。その後すぐにあった実行委には金本さん自身も参加してくれ、炊き出しの場で体を触られたことについて、しっかりと話してくれました。ただ、金本さんが書いているように、実行委員会内でそれを十分に受け止めきれず、二次加害も起こってしまい、その後の二次加害防止研修の取り組みにつながっていきます。

何ができるか

3月にこのことが共有されてから、夜回り準備会としてはどんなことができるか、また越年実行委員会としてはこの

問題にどう取り組んでいくのか、それぞれ話し合いが続けられました。夜回り準備会としては、2年に渡るセクシャルハラスメントに対して、加害者には越年の現場に、少なくとも夜回り準備会の担当日には参加してほしくない旨実行委に要請することになりました。もし参加するのなら、加害者自身がこのことを認め、謝り、何らかの対策が取られるべきだ、という話にもなりました（自分のした行為が相手に対する暴力で、恐怖を与えたのだということを認めて謝れば、とりあえずは来ないという選択肢しかないのではないかという話も）。そのためにも、まず加害男性と話をする場をつくることを実行委に要請することになりました。



実行委は6月に加害男性（Aさん）と話し合いを持ちました。そこに私も立ち合い、こちらで把握している事実、被害者が傷つき、やめてほしいと考えていることを伝えました。が、Aさんは覚えがないと言い、自分のした行為自体を認めることも謝罪もなく、発展的な話し合いを行うこ

とはできませんでした。また、炊き出しで食事を手渡すのは女の子が笑ってするのがいい、実行委がどう言おうと自分はそう考えているという主張もされました。それを受け、夜回り準備会の担当日には炊事テントに入らないでほしいと話し、それは了解を得ました。その後その結果をもとに、実行委全体としては、夜回り準備会の担当日には、Aさんには、越年自体に参加しないでもらうしかないだろう、少なくとも彼の主張だけ聞いても、それに応じた対応をせざるをえない、という判断となりました。

二次加害防止研修をしてみても

また、Aさんとのやりとりと同時に、この間取り組んできたセーフター・スペースが形骸化していたのではないかと、自分たちがまずセクシャルハラスメントや二次加害について学ぶべきでないか、という意見が、実行委の中から上がり、外部講師を招いて研修をすることになりました。

まずは実行委のメンバー向けに性暴力被害者支援センター・ひょうご(★1)のスタッフを招いて7月26日に研修が行われ、基本的なセクハラに関することを中心に話してもらいました。しかし、この研修だけではとても時間が足りなかったこと、この内容を再度越年に参加するすべてのグループに周知できたら良いと思われたことから、越年前に再度関係者に広く呼びかけ、二次加害防止研修を行うことになりました。

12月13日に行った研修の参加者は15人ほど。はじめに30分ほど神戸の冬を支える会の歴史、震災からの神戸での野宿者支援活動の経緯を共有しました。その後セクシャルハラスメントとは何か、二次加害とは何か、どうして二次加害が起こってしまうのか等を話してもらい、それぞれのパーソナルスペース(★2)について、実際の身体の距離で確認したりもしました。



二次加害が起こる背景

特に、二次加害については、被害や訴えを聞いた第三者はその事実を認められなかったりショックを受けたりすること、性に関するタブー感から、話ができなくなってしまうことなどがわかりました。「被害者が嘘をついている

のではないか」「そんなに大したことではない」「あの人に限ってそんなことをするはずがない」等と加害者を擁護したり、被害者を責めるような発言をしてしまうことがあることも学びました。そういう気持ちがわき上がることはあっても、まずは被害があったことについて話してくれた相手にありがとうという気持ちを伝えること、彼女・彼の立ち位置から見えている情景を理解し、その意思を尊重すること、などが最後に話されて終わりました。

研修に参加した人の感想には、これまで無意識にしてきたことでセクシャルハラスメントにあたることもあった、という気づきや、被害当事者の気持ちに寄り添うことがどうしたらできるか、という問いもありました。

二次加害防止研修には、越年のときにしか会うことのない人たちも参加してくれ、それぞれ意見を出してくれたり、気づきや感想を持って帰ってくれたことが何より良かったことだと思います。

そこから、具体的に次の越年ではセーファー・スペースの呼びかけをどうするか、配布するビラの文言の見直しも含め、参加者から誰が実行委なのかが分かりやすいように印をつけることなど、いくつかの改善がなされました。

二次加害、その後

実行委で起こった二次加害については、金本さんの了解を得て、鍋谷が発言したBさんと話をしました。Bさんの

いくつかの言葉が、金本さんにとっては、事実を認めてもらえないように感じたり、自分が心に思っていることを素直に訴えにくくなったりしたことを伝えました。話をしてみても、Bさんにはもちろん、二次加害をするような意図はなく起こっていたのだということが分かりました。私も含めその場にいた人の問題意識のなさも、二次加害が起こるのを助ける要因になっていたと思います。でもそれが二次加害の難しさで、自分もしてしまっていることがあるだろうなど思わせられました。

何かあったときに、相手に嫌だと思ったことが言える関係というのは本当に大事で、でも難しいことだと思います。ハラスメントの問題は、それが起こったときに、周辺の人たちもまた、これまでと同じようなコミュニケーションを取りにくくなったり疑心暗鬼になってしまう、という大きな影響があることを再確認しました。

これから

今回の越年の感想は金本さんの書いている通りです。金本さんが、少しでもそこに安心して居ることができたということなら、取組みに意味があったと思えました。ただ、毎回いろいろな人が参加する場である炊き出しでは、今後も同じようなことが起こる可能性はいくらでもあります。人権を守る活動をしている中で、問題にされない差別があってはならないと思っています。性差別・性暴力はあまり

に日常にあふれていて、とくに問題にされにくいとも感じます。そこまで力は及ばないけれど、問題が起こってしまったとき、やはりそのことをきちんと受け止めること、できることを考えていくことと、そのときに被害を訴えてくれた人の思いを尊重しながら動いていくことしかないと思いました。

(なべたに よしこ)

【注】

- ★ 1 性暴力被害者支援センターひょうご：性暴力被害を受けた人のための兵庫県下にあるワンストップセンター。
website : <http://1kobe.jimdo.com/>
- ★ 2 パーソナルスペース：心理学用語で、コミュニケーションをとる相手が自分に近づくことを許せる、自分の周囲の空間（心理的な縄張り）を指す。一般に、親密な関係ほどパーソナルスペースは狭く、男性より女性の方が狭いとされるが、社会文化や民族、個人の性格やその相手によっても差がある。

【参考】

*2015-16 越年越冬 神戸冬の家

セーフスペースピラ内容

おおぜいの人(ひと)が集(あつ)まる

「冬(ふゆ)の家(いえ)」です。

みんなで一緒(いっしょ)に

気持ち(きもち)よくすごせるように今年(ことし)も

「セーフ・スペース」をつづけていきます

2015-2016版

* * *

「冬(ふゆ)の家(いえ)」は、なるべくいろいろな人(ひと)が
いっしょにすごせる場所(ばしょ)であってほしいと、わた
したちは考(かん)がえています。でもこれまで、セクシュア
ル・ハラスメントを受けてイヤな思(おも)いをしたけど、そ
れを誰(たれ)にも言(い)えずにいたということなどもありました。
それで、セーフ・スペース(より安全(あんぜん)な場所
(ばしょ))の取(と)り組(く)みを始(はじ)めています。

* * *



疲れたら、しんどいことがあったら、ちょっと休みたくなったら、気軽に声をかけて下さい。

「これまでだまっていたけど、本当(ほんとう)はイヤだった」「困(こま)っていたけど言(い)えなかった」……。

本当(ほんとう)は、そういうことを言(い)えなくさせている雰囲気(ふんいき)じたいがおかしいのです。まわりの人(ひと)も、思(おも)いがけず、しんどい思(おも)いをした本人(ほんにん)をさらに傷(きず)つけてしまっていることがあります。

相手(あいて)のイヤがることはしない。イヤだと言(い)われたらすぐにやめる。まずはそのことに気(き)をつけながら、みんなでいっしょに過ごす「冬(ふゆ)の家(いえ)」にしましょう。

イヤな思(おも)いをしたり、心(こころ)がしんどいと感(かん)じたときは、本部(ほんぶ)や実行(じっこう)委員(いいん)、信頼(しんらい)できる人(ひと)に声(こえ)をかけてください。何(なに)かが起(お)こっているのを見(み)たり、気(き)がついた人(ひと)は、それを知(し)らせてください。一緒(いっしょ)に解決(かいけつ)策(さく)を考(かん)がえたいと思(おも)います。冬(ふゆ)の家(いえ)からイヤな思(おも)いを抱(か)かえたまま帰(かえ)ることのないように、話(はなし)をしたり、やすめる場所(ばしょ)も設(もう)けます。

《どんなことが「イヤなこと」?》

- 必要以上(ひつよういじょう)に近(ちか)づいたりつきまとわなないでください。
- 体(からだ)をさわらないでください。
- 体形(たいけい)や年齢(ねんれい)のことでからかったり、いやらしい言葉(ことば)をかけないでください。
- 家族(かぞく)のこと、恋愛(れんあい)や結婚(けっこん)など、プライバシーに関(かん)することを、ムリに聞き出(きだ)そうとしないでください。
- 断(ことわり)なく個人(こじん)の写真(しゃしん)を撮(と)らないでください。
- 名前(なまえ)がわからないからといって、「オイ」とか

「コラ」とか呼(よ)ばないでください。

- 「若(わか)い女(おんな)の子(こ)に渡(わた)してもらった方(ほう)がおいしいからね」といったような言(い)い方(かた)もやめてください。
- 年(とし)が上(うえ)だったり、経(けい)験(けん)があるからと、えらそうに命(めい)令(れい)しないでください。



越年越冬実行委員会

*神戸の冬を支える会 越年越冬活動「冬の家」事前研修
のお知らせ*

神戸の冬を支える会は、震災のあった1995（平成7）年11月26日に15団体と個人が集まり任意団体として活動を始めました。それから20年、越年・越冬活動「冬の家」も21回目を迎えることとなりました。

その後、2004（平成16）年10月1日にはNPO法人として新たなスタートを切り現在まで活動を続けてくることができました。この間、いろいろなグループの方々や個人の方々に支えられ、活動を継続してこられたことに心から感謝いたします。同時に、未だ炊き出しをはじめとした支援活動を必要とされる社会状況にも心を痛めています。

毎年の越年越冬活動に参加いただいでくださるの方々の中にも、そもそもの「冬の家」がどうして始まったのかをご存じない方もおられるのではないのでしょうか。

そこで、今年は、越年越冬活動の事前研修という形で、なぜ、年末年始のこの時期に、炊き出しや生活相談などの場所が毎年つくられているのかを共有しておきたいと思えます。

また、20年間の野宿している人たちの人権を守るための活動を行ってきた私たちの活動のなかで人権を侵害するといったできごとも起こっていました。特に、ジェンダー（社

会的・文化的な性)による役割の押し付け(男性だから・女性だからといった決め付けなど)などを問題化し、実行委員会としてきちんと対応していきたいということで、4年前から、セーフスペースの取り組みを行うようになりました。しかし、それだけでは不十分であることを示すようなできごとが昨年度の越年越冬活動期間中に起こりました。具体的には、性的に嫌な言葉をかけられたり、体を触られたりということです。4年前から取り組んでいたにもかかわらず、セクシュアル・ハラスメントにあたる発言や行為が起こり、嫌な思いをした当事者からの告発がありました。

そのこともあり、今回、「冬の家」のそもそもの目的と、そこに集まる人たちの間でさらに差別や抑圧が生まれないようにするための研修を、開くことにしました。

年末のお忙しい中とは思いますが、ご参加いただきますようお願いいたします

* * *

日時：12/13(日) 13:30～16:30

場所：三宮・青少年会館5F・視聴覚室

2015(平成27)年11月22日

第21回 越年越冬「冬の家」実行委員会

9. それぞれの感想

悲しいこと

金本 美子

野宿をされている方から、「迷惑になるから、これで(野宿で)いい。」という話を聞くと悲しくなります。

生活保護は命を守るもので、生きる権利は平等にあるから、迷惑ではありません。

けれど、野宿をされている方は周囲の人から、「生活保護＝迷惑」と思われているのです。

それは、生活保護者への差別が存在しているからだと思います。

悲しいけれど、夜回り続けようと思います。

そして、自分に出来ることを増やしていけばいいなと思います。



最近の夜回りで思うこと

立川 献

昨年夏頃以降、幸いなことにかかなりの回数、夜回りに参加することが出来ています。初めて夜回りに参加した日から、もうかれこれ4年ほど経ちましたが、今になってようやく運転ルートを把握することができるようにもなりました。これは、私が方向音痴であるということにもよりますが。

こうして継続して夜回りに参加することができるようになって初めて、継続し続けることがいかに難しいことであるかを実感しています。そして、私が休んでいるときにも、当然のように継続して参加するメンバーを、私は尊敬しています。

私は、自分の職場では、効率的に仕事を回し、なるべく無駄な作業をせずに済むように、ということに神経を使っています。しかし、夜回り前のミーティングや夜回り関係の色々な打合せでは、効率的に議事を進行することよりも、夜回りを通して気づいたことや、色々な出来事を目にして思ったことをシェアすることも重要なのだと感じています。自分の思いを正直に話し、共有（たまに集まってピザを食べることもありますが）することが、夜回り準備会の1つの存在意義なのだと思います。ただ集まって、「効率的

に」話し合い、「効率的に」夜回りをするというだけなら、きっと何処となく冷めた活動になってしまうような気がします。

この小さいけれど温かなコミュニティを、大切にしたいと思います。



2度目の感想

鍋谷 美子

感想を書いて一晩寝かしてから送ろうと思っていたらUSBがウィルス感染し、データが全部消えました。

消えた感想には、この一年で自分の生活が激変してかなりタフだったことと、その中で相談の仕事をするにつ

いてのキツさを書いていました。でも、消えてしまって、なんだかもう一度書けなくなってしまいました。

この一年は、経済的にも精神的にも本当にいろいろしんどかったのだけど、そのこと自体だけでなく、そのことについて話したり表に出すということが、難しく、さらにしんどいことでした。自分がしんどい、キツイということを確認するのはなかなかハードな作業です。それを人に話せるということは、それを認める段階を乗り越えていたり、そのキツさに取り組んでいる状態だったりするのだと思います。

私が今しているのが、家のない人の相談を聞き家で暮らせるようになるまでの支援をするしごとで、相談を聞くということはその人の人生を話してもらうことになります。家がなくなるまでの過程では、いろいろなしんどいことが重なり起こっています。それを話してもらい、聞く。

頭では分かっているつもりだけど、やっぱりしんどいことを話すのはどれだけキツいか、自分がそうになってみないと実感できない。その中で相談しようと思ひ話してくれる人の力はやっぱりすごいと思います。「相談できる」って、その人の持つ力だなあと。

夜回りは、すぐに、なにか、目に見える効果のあること（それも、誰の何にとって何が効果があるのか、それを誰

が判断するのか、とも思うけど)ができなくても、何かあったときに、相談していいと思ってもらえるような関係をつくる活動だと思っています。その人の相談できる力が発揮できるように、関係をつくっていくこと。それは、地味で時間がかかることだけど、人と関係をつくるというのは、そういうことなんだと思います。

そして、聞くほうが大変では相談したくてもできないと思うので、自分自身も、困ったらちゃんと相談する、力をつけたいと思っています。とりあえずは、夜回りメンバーたちに。

「老人ホーム落ちた日本死ね」

野々村 耀

2月23日 NHKが「介護疲れで妻殺害の夫、逮捕後に食事を拒み続け死亡」と報じました。2月5日に埼玉県小川町で無理心中しようとして77歳の妻を殺したとして83歳の夫が逮捕されたが、夫は逮捕後食事を拒み23日入院していた病院で死亡した、とのことでした。僕にはハンストのように思えました。僕は80まで1年半ほどありますが、とても人を介護できるとは思えません。それどころか自分が暮らしていけるか不安です。

少し前には施設に入っていた老人が何人も施設の中でなくなり、介護に当たっていた青年が殺した疑いがもたれ

ています。せっかく施設に入っても安心できない。多くの人が入りたいと待機しているのに。

僕は以前から、日本にストリートチルドレンが（ほとんど）いないことに関して、日本ではストリートチルドレンになるかわりに、家庭の中で殺される、とおもってきました。

「保育所落ちた、日本死ね」というネット発言があり、それに共鳴する人の署名が27000も集まったそうです。

私たちの暮らしている社会は箍がはずれ、底が抜けてしまったようです。

子供も、子育てする若い人も、年寄りも、どうしようもなくなった人が増えています。中年の問題も顕在化してくるでしょう。奨学金の返済に困っている人も多い。経済成長で乗り切ることは無理だろうと思います。

アメリカのサブプライムローンの破たんを描いた「ドリームホーム」という映画の中に、「アメリカは負け犬に手を差し伸べない。此の欺瞞の国は勝者の、勝者による、勝者のための国だ」、というセリフがあります。ローンを払えなくなった人を追い出して（2分で出て行けとって追い出し、家財道具も家の前に出してしまうのです）大儲けした

人のセリフです。新自由主義をあらわした言葉です。日本がアメリカをまねている限り、どんどん悲惨になるでしょう。それを変えることにしか希望はないと感じています。



これからも続く関係

森脇 梓

夜回りの活動に参加するようになってから、1年が経ちました。私が継続して参加できているのは、活動内容に賛同しているからというだけでなく、この活動を通じて出会った方々のおかげだと思っています。年齢も職業も異なる人と接する機会はそう多くはないので、さまざまな人とお話しできる夜回りは貴重です。学ぶことが多く、参加して本当によかったです。今後も都合がつくかぎり、活動のお手伝いをしたいと考えています。

この1年の間に、活動において変化がありました。事情があって、訪問をやめることになった方がいらっしゃいま

す。夜回りでお会いすることはできなくなりましたが、この方が働いておられる姿は、今でもときどきお見かけします。お仕事中ということもあり、なかなか声をかけることはできませんが、元気にしておられるのだとわかるだけで安心します。訪問しなくなったとしても、それだけで関係が切れるわけではありません。自分に何ができるかはまだわかりませんが、力になれることがあれば、協力したいと思っています。

反対に、別の新たな訪問先が加わりました。これからどのような関係を築いていくべきか、自分なりに考えていきたいです。

10. 会計報告 カンパ御礼

2014年度会計報告 (2014年4月1日～2015年3月31日)

項目	金額 (円)	備考
収入		
寄付金	243,200	53件
助成金	115,000	NHK 歳末助け合い義援金(9万円)、ボランティア基金(2万5千円)
合計	358,200	
支出		
車両費	19,600	燃料費
物品費	86,927	炊出し食材費(越冬)、下着、蚊取り線香、カイロ、医薬品、コーヒー等
印刷製本費	80,900	活動報告書印刷費
通信費	16,373	報告書発送費、振込み手数料
支払寄付金	30,000	神戸冬の家・越冬越冬活動に協賛
管理費	124,400	分室維持管理・人件費
合計	358,200	

寄附・寄贈報告

(自：2015年3月1日 至：2016年2月29日
敬称略)

青山美香、芦屋市上宮川文化センター、井上みち子
岩崎 滋、大川妙子、お遍路おばさん、掛橋智佳子、片山 恵
亀岡恒雄、川辺比呂子、桐田泰江、後藤安子、斎木 彰
下川 潤、下田隆清、住田サーラ、竹原邦雄、谷合公江
田平正子、鄭 秀珠、鶴崎祥子、中桐敏志、長澤 毅
中田作成、中原真理子、西山秀樹、二宮百合子、野々村耀
東 昌宏、飛田雄一、藤岡正雄、藤河純子、堀 泰雄
堀部 碧、牧野 哲、正木紀通、松下公人、宮地京子
山崎 貢、山本かえ子、山本容子、吉田英二、米岡史之

★多くの方からカンパ、毛布、衣類、靴などの物資、リン
ゴなどを頂きました。感謝して活動に使わせていただきました。
第4土曜の夜回り前に美味しいおにぎりを握ってく
れている、山本容子さん、宮地京子さん、富山悦子さん、
川北ユキ子さん、いつもありがとうございます。

万一、お名前の漏れや間違いがありましたら、ご一報いた
だけるとありがたいです。

※今号の報告書は、「27 年度NHK歳末助け合い義援金」
の助成を受けて作成致しました。

神戸YWCA夜回り準備会（仮）活動報告書 vol.11

2016年3月31日発行

編集 金本美子・立川献・鍋谷美子・野々村耀・森脇梓

発行 神戸YWCA夜回り準備会（仮）

【神戸YWCA本館】

〒651-0093 神戸市中央区二宮町1-12-10

TEL 078-231-6201 FAX 078-231-6692

【神戸YWCA分室】

〒651-0062 神戸市中央区坂口通5-2-16

電話 FAX 078-221-5111

【E-Mail】 yomawari@kobe.ywca.or.jp

【URL】 <http://www.kobe.ywca.or.jp/top/activities/regional/yomawari/>

【郵便振替】 01100-0-10298 公益財団法人神戸YWCA

【銀行口座】 三井住友銀行三宮支店（普）1015232

公益財団法人神戸YWCA

「参加者募集しています！」夜回りや病院訪問などにご参加いただける方は、上記連絡先までご連絡下さい。